

後期生徒会成立

十一月十四日、高校生徒会が、遅れて二十五日、中学生徒会が成立した。高校会長の公約の中に文化祭の準備という事があるが、たが意欲的な試みとして今後、その活動が注目される。

中 高校生徒会が無事成立した。

後期は前期に比べて行事が少ないので、それだけ活動の場も少なくなるであろうが、予算のこと、あるいは来年の文化祭に向けて、その成功のために、生徒会々員をリードして、一層充実した生徒会活動を行ってほしい。

そこで、我が新聞局では、後期生徒会の活動方針を、高校生徒会々長の川嶋君、中学生徒会々長の内山君に、その事についての簡単なインタビューを試みた。

(高校)

Q 生徒会活動の抱負は？

A 選挙公約にも掲げたが、文化

洛星新聞 編集局
北區小松原町
(463) 3281 (代)

主要記事
三面 タブロー
四面 遠足
六面 聖母訪問も
八面 投票書

祭を後期から考えてゆきたい。

Q 今後の計画はどうなっているのですか？

A 冬休みが終り次第、高一を中心にして文化祭企画委員会(仮称)を発足させ、文化祭の本質的な意義を明らかにし、現在の企画について検討したい。また第三〇回という事で新企画についても考えていく。

Q 生徒会への生徒の関心という点ではどうですか？

A 後期になると諸般の事情から、高2・高3の意欲が薄れるが、生徒会全体のゲレにつながるという、士気の高揚と高一の奮

起を期待する。

(中学)

Q 生徒会活動の抱負は？

A 今までは、生徒の自主的な態度が見られず、風紀その他の点で、いつも先生方から注意されてきた。これを少しでも改善していきたいと思っています。

Q 生徒会への生徒の関心という点ではどうですか？

A まず生徒会が何をやっていっているのか、わからないようなことは困ります。プリント、掲示等を注意して見て下さい。また、委員会活動を活発にし、生徒会に積極的に参加してもらえよう努力します。

Q 何か新しい企画は？

A 例年通りサッカー大会を開くつもりですが、できれば、何か新しい行事を企画したいと思っています。また、投票箱を設置することについても検討していきたいと思っています。



小松原

▼西洋史上で、太陽暦を使い始めたのは、ローマ共和制末期から帝政初期

のユリウス暦からで、それが今日のユリウス暦らしい。この暦は、カエサルが制定したとされる。

July (七月) August (八月)

は、それぞれカエサルのユリウスと初代皇帝の称号アウグストゥスから来ている。▼ローマ人の時間の表し方は、カエサルのガリア戦記によると、年度はその時の執政官の名前をつけた。都市の建設を元年としたりしている。時間は

日中から日没までを十二に分けており、水時計で相当くわしく測っていたらしい。ガリア戦記の中に

も「何月何日の第何時に出来た」という史料を幾度となく見つけることが出来る。▼新年そうそう、暦の話題になったが、普段気にしないが、重要な物である。新聞局も、このような物になりたり、

と、思っている。

高 校 生 徒 会 役 員 人 事

〔執行部〕

会長

川嶋 貴樹 (II B)

副会長

北岡 芳久 (II B)

書記長

小川 伸彦 (II A)

会計委員長

北村 浩二 (II A)

文化委員長

清水 真人 (II C)

風紀委員長

仲尾 謙二 (II B)

体育委員長

龜田 誠 (II D)

執行委員

伊藤 文章 (I C)

書記

戒能 一成 (I B)

會計

山田 康 (I A)

会

見玉 尚樹 (I A)

計

江川 晴人 (I A)

議長

勝藤 史郎 (I A)

副議長

村山 裕史 (I A)

議長

藤野 能久 (2 B)

副議長

吉村 潔 (2 D)

議長

前田 宏二 (1 C)

中 学 生 徒 会 役 員 人 事

〔執行部〕

会長

内山 泰至 (3 A)

副会長

松村 圭裕 (3 A)

無任所委員

山川 智彦 (3 B)

相原 弘幸 (2 A)

山崎 潤 (3 C)

井原 通夫 (3 D)

仲井 嘉彦 (3 D)

文化委員長

小西 芳広 (3 C)

風紀委員長

山根 真哉 (3 D)

書記

稲川 武宜 (2 B)

花本 治一郎 (2 D)

中井 聡 (3 C)

中野 立史 (3 C)

落合 敦 (3 C)

伊藤 大樹 (3 D)

竹内 義治 (3 A)

會計

有井 晶 (3 A)

議長

藤田 信彦 (3 A)

副議長

高井 章博 (3 D)

監査

監査局

監査

監査

監査

監査

知 識 の 館

★ 二〇世紀の第一日は

一九〇〇年一月一日で

はなく、一九〇一年の

一月一日である。

★ ノルウェーの偉大な劇作家イブ

センは、看護婦に「今日はとてもお

加減がよい、様ですわね。」と言われ

「そんなはずはない！」と言った。

そのまゝ思案して、た。

★ 18 CM の鉛筆は5キロの線が引け

日本の生産量は世界第二位。

★ 生まれた瞬間から教を教え始め

六十五歳になるまで教を続けても

十歳に達することはできない。

★ クレムリンは「警察」だ、若くも

意味し、ロシアの都市の教多ハクレ

ムリンの中で、モスクワのが最も有

名だといふにすぎない。

★ 国カでの卵をテーブルの上でま

わすれ立する。生や半熟ではダメ。

★ フランスの画家ルノワールは

晩年関節炎で手が利かず、絵筆を手

にしぼりつけて絵を描いていた。

★ ビッグ・ベンのは時報用の鐘の名

前であり、時計でも、建物の名前でも
ない。

※編集局注……みんなホントです。

楽しいお料理教室

さて、今回は即席ヨーグルトを作
ってみたい。用意するものは、
牛乳とレモン。お好みに応じて砂糖
の作り方……牛乳をコップに取
り、レモン汁を入れる。出来上り。
さ、よく試してみよう。レモン
のはよい。ほがきいて、勉強
に疲れたあなたにピッタリです。◎
本格的なもの、というのなら、レモ
ンのかわりに市販のヨーグルトを少
しおいて寝かせます。ただし理科
の時間にこれを聞いたばかり
は（実は私）実行して、す
うまい。目にあいました。

*** いかげすしたか？
貴公の賢母の中には、
すでに知、という。

しゃった人多いのはないでし
うか。す。ばい体験をおなだも。



12月24日、午後から雨が降り出し、観客の入りが心配されたが、五時三十分の入場開始前に、新講堂前には100人を超える外来者の人がつわかけの程の入りであつた。イブの夜をふくむ、このタブローの様子を客席と舞台裏の両面から追つてみた。出入口には教堂の小冊子や善金箱が置かれ、会場は金儲暖房のため、いへん暖かい。まずは司会の前田(田)先生のおかげで、生徒、学校長と続くこの間、キャストは舞台裏の通路にひそんでいるのだが、裏暗で何も見えない。出入りするスタッフのベンチがイトが時折折れるだけである。もちろん雑談は一切厳禁。↓合唱隊の入場。暗い場所を静々と動く口ウツクの炎の列に、会場の雰囲気はいやが上にも盛り上がり、てくる。そしてしんとした場内に響く聖書の朗読の声。↓第一幕がおりると同時に、装

置係が飛び出す。幕間の作業は迅速に、しかも音をたてることはできない。ヒニールテープで指定された所に配置するが、中には後ろからささへねばならぬ物もある。↓

第三幕のヨゼフは立、ているだけだが、マリアへの愛といたわりを象徵している。聖書に人口調査の事がうがあるが、ここに出てくるシェザルとはカエサル（カエサル）の独語読みで、アウグストとはローマ初代皇帝アウグストゥスの事である。↓

西劇張り出しから、大天使とハンドベルの演奏。この音色は何度聞いても心地よい。ここからキリスト登場となるが、キリストを生かすため、ヘロデ王とその部下のみは、登場しない。↓

赤子を産むマリアは、長い時間、カイバオウの照明の下で苦しむ。過去には女らしく倒れた人もいたとか。最後は祝いのダ

Merry Christmas!

タブロー-成功に終る

★ ぼくがタブローに参加することを知らされたのは、後期中間考査の始まる二日程前だ。た、以前からタブローというものがあることは知っていたが、まさか自分があたることは夢にも思っていないが、た、考査が始まり、そのことはころ、と忘れていたが、考査が終、てみんなが歌の練習を始めた時、改めて思い出した。その日は衣装合わせの日だ、たので、友達を請、て東和室に行、た。その瞬間、ぼくら

しかし、どうあがいても仕方がない。覚悟をきめて、次の日からさ、早く朝九時から夕方四時まで、のハードな練習をした。合計二時間の休りがあり、楽しく気楽にできる練習であつた。たが、それでも少し動くと足がいたくなつてくる。しかし、そのころには何人もの友達があつて、練習に参加するのが楽しみになつてきた。友達だけでなく、先輩も優しく、おもしろい先輩があつた。いよいよ本番の日、朝から少しだけステージ練習をしただけで、あとはみんなと遊んでいた。今さら何をすることはないと思つて、いたが、本番が近づくにつれて、ガタガタふるえてきた。みんなとともに客席は見れなかつた。たうだ。実際にや、ていゝ時は一生懸命で何も思ひなかつた。が、終つてから、と喜びがこみあげてきた。このクラブローは学校生活の中でも、とても印象深いものになるだらう。

山へ川へ里へ民博へー



秋の遠足から

中一

非常に疲れた

十一月五日(水)、僕達中一は秋の遠足に出発した。嵐電嵐山駅より、目的の落合を目指して……。出発した時と比べると、歩いてゐるうちに幻配はととん殿しくなつた。これが愛宕山かと思つてゐると下りに……。勿体ないように思へた。保津川と山陰本線の眺めは壮大だ。目的地に着いたのは登前で、川原に下りて昼食の用意。御飯は殆んど、いや、全部が焼き肉であつた。

これが群衆心理といふものであろうか。エボルギー源は固型燃料。しかし、火は原始的に操り入れたものであつた。煙が生じて、煙たいと思つてゐるその中から苦勞して火種を取り出して使つたのである。失敗した班も多々あつたが、全員、半生の肉ぐらひは手に入れた。帰りは行き

より疲れたが全員歩き通し、嵐山駅で解散した。

中二

貴船川での飯金炊さん

他班より早く焼肉を格めた我が班は、そろそろ食べ始めようとしていた。すると、ラバディ先生の声。「あと30分で終わります。早く何の事かさ。はりわかうないので、そのまゝ素早く食べていた。御飯はまだまだお粥だつた。

「食べるのやめ。後始末始末。」と突然のお通し。しかし、まだ飯も肉も半分以上残つていたので、しつこく食べていると、各先生方から注意を受けた。

さあ大変だ。他班は着々と片づいていく。我が班はと言へば、飯金一つは放り出してあり、肉、野菜はバラバラ。用もないのにヤカンの水が

沸騰している。

片々端から荷を詰め込んで、ぎりぎりセーフ。とにかく、てんやわんやの飯金炊さんでいた。

中三

「な、なんと、そこには……」

山が田んぼのすぐそばまで迫り、谷間の里という感じであり、こんな小さな里にも田んぼがあるんだなあと思わせるような小さな里が氷室である。稲の切り株の残る田んぼの中を行くうちに、や、と目的地が見えてきた。

な、なんとそこには、他の学校が来ているではないか。ア然として、我が校を展目に、その学校の生徒たちは弁当を並び始めたではないか。仕方なく我々は帰り道を行くことにした。や、とゆ、くり休むと思つていたのに、休みもせず氷室の里を出て行く足取りは重かた。

数十分歩いてや、と休み、弁当を食べようとしたところは、なんと山

逆の真ん中ではないか。そんな所で食事をせねばならぬ羽目になつてしまつた。(C・井上勝裕)

高一

泥にも負けず……

天候については割合無毛着な高一であるが、今回の比較山フィールドアスレチックには閉口した。バス四台をチャーターし、延暦寺まで見学して出だしては快調だ。だが、いざフィールドアスレチックに挑みんとして自然の恐ろしさを痛感した。時間制限や技術的に難関と言へる種目があつた訳ではない。ただ、競技台が泥だらけで、へたに動けばたちまち転落するし、何かにつかまろうとすれば、手は泥まみれ。地面は水田さながらで、一度はま、だが最期の底なし沼(少し大げさ)だ。たのである。

が、皆、結構楽しんでた様だ。た。(中には競技台にからまり、苦しいでおる御人もいたが) その後、平坦な道をだらだらと歩き、ケーブルで下り、帰りは来た。た。(局員)

高二 高ニ
化野念仏寺へ

高二は、車折神社から北遊城を見学し、化野念仏寺を団体鑑賞、清池に至る健脚向け？コースであつた。

皆、思い思いに歩き、広沢池を横に見て北上する。あたりは田畑だけとなり、新丸太町通りまでの住宅密集地とは違つて、田舎、ばい、竹やぶに浴びて皆のカラフルな姿が随分遠くまで続いている。少し歩いた後、街のお店で西野先生が道を訊ねられ、左折して大覚寺に着く。しかし、後続者は途絶えた。先頭の天皇陵への参り忘れが原因ということであつた。当時より大文字鳥居を見上げながら化野念仏寺に至る。化野とは、昔疫病で死んだ人々や、無縁仏などの死人を、山とつみ上げて風葬にしたという悲しい場所だつた。でも今は観光客向けの店が立ち並び、修学旅行生も多い。だが、「西院の河原」と言われる石仏群の中に入ると、足元から感じるものがあるのか、

然、てしう人が多かつた。

この後、峠を越えて清池に着き、昼食の後解散した。(局員)

高三 高ニ
民博に行く

高3の遠足は、例年どおり万博内の民族博物館を訪ねた。当日は、半数ほどの人の、「雨降れ、雨降れ」という願ひもむろしく、すばらしい天気となつた。

さて、民族博物館というのは、世界各國の民芸品……茶碗、人形、飾り等……を展示したものである。洛星以外にも中学、高校が教訪訪している。たので大変混雑していたが、皆思ひより真面目に観賞していた。

その後、弁当を食べて解散となり、解散後、大部分の人は、すぐ家に帰る。中には翌日の球技大会に備えて、練習するクラスも三見られた。また隣接するエキスポランドへ行き、あのスペースグラマランダーに乗つてはしゃいでいる人達もかなりいた。(元局員)

校内の話題をひろって

後期開始——一九八〇年十二月

行事

10月21日 始業式
11月1日 新聞102号発行

11月4・5日 遠足・球技大会

20日 追悼ミヤ

29日 新聞号外発行(中)

12月9日 新聞号外発行(高)

12月17日 中間考査(中学は13日)

18日 冬期休暇

24日 クリスマス行事

27日 事務打ち切り

団観

高一 御所見学
中一 正倉院展見学

日誌から

〇〇君他は名が英語の宿題を忘れて、一文につき50回書かされる。28文あるので1400回、一文0.5分として11時間、そして、それらがええ1文につき100回で22時間費やさねばならぬ。したがってテスト勉強がおくれ、平均点は下がる。ゆかいだね。(中一)



交換した他校新聞の中から、おもしろいものをご紹介します。記事は論説のコーナーや、娯楽的なコーナーから集めたものです。

■そしてまた、今はシラケの時代である。生徒会は、「建設的な意見や関心を」としきりに言うが、受験校のシラケ世代に何が求められよう。

宣伝、宣伝である以外、生徒会存続の道はない。——愛光(アコラ)

■一昔前の紫野新聞には紫高でデモ行進があったと記録が残っている。今から考えると夢のような話だと思う。

う。後教の人間が共通の考えに基づいて行動を起すことなどもはや紫高では忘れられたことになってしまっている。

——紫野(語源)

中間試験必勝法

一、早期決算型……特攻賞格の君は

1教科だけ満点を取り、残りは捨ててははしく散らう。

二、短期決戦型……勉強する時間のない君は金で先生を落とそう。こ

れで田中金蔵思想の極地である。

三、長期決戦型……体力に自信のない

他校新聞トピックス

早弁



い君は、今から徹夜のトレーニングを積もう。勝利は不眠にある。四睡眼大敗型……根性のない君はあきらめてすぐ寝よう来年はもう一度やり直してある。

五、絶望放棄型……バカだと思てあきらめよう。そのうちいいこともある。

先生、2時間目と3時間目の間、及3時間目と4時間目の間の休み時間には教室に來ないで下さい。ごほんかのどにつかえです。

——駒場東邦(今駒東で)

バイク禁止

生徒の意見から……卒業間近やし、今更どうでもいい。これから寒くなるし勉強もある。という「アキラメ派」

・家に置いてあるし、や、ぼり……オレは無事故無違反のになあ。

来りたいにきき、てるやんけ、と言う「ノリタイ派」

・ヘルメットかぶ、てたら安全とちがうのか、という「シラケ鳥派」

・免許、とりたか、た、いい、る「ミジナ派」

全体的に言えることは「バイクに乗りた」でした。

自転車よ、お前もか!!

「バイクと自転車と似てる点、多い」というのがありました。確かに自転車でも時速50kmを出すのは可能です。地面の濡れている時のブレーキの性能は、バイクの方がよさ、てい

ます。そこで今後、自転車事故が多数発生した場合どうなるかという問題に対して校長先生のおことは、

……校長先生は皆さんを信

服されていきます。バイクのこの弊はやめよう。——京都商業

(バクダンコーナリ)

恥かき話

バスオトルとバスマットを間違えて、バスマットで苦学しながら、一生懸命体を洗ったHさん。その前の人がそれで足をふいていたって言うから、たまりませんよねえ。——聖母

(素直の修学旅行こぼれ話)

★

フルツチョフがカストロに、ソ連製の車を送ったが、ハンドルだけが折り返し電報を打った。至急ハンドルを運べ。このままだと運転不能。これにたいしてフルツチョフはこう答えた。「君はアクセルを踏んでいればよい。運転は私がする。」——一九七九年 凡誌



訂正 11月発行の中学版外で、野球部のメンバーの「投・村井③」は「投・松村③」の誤り、「村松③」が記入もれてす。訂正し、お詫びします。

投書欄

夜山の日影にて

授業中、精神が集中しないことがある。自づと思索をめぐらしてしまふ。

▼ポルタが開店した。バスに乗るのに地上が横断できないんだ？

カービス精神に欠けるなあ。そうじゃなくとも値上げのには。

▼地下鉄の開業は一体、いつになるんだらうか。来年に。たう。また延期発表するにしろんじやないの？

▼空糸糸例は当分できやうにないなあ。え、その方がいい？？ 皆ホイ捨てるから。

▼自分のこと、学校のことを振り返っても同じだね。図書館を見て然り、食堂見て然り、そして朝の学校の校門見て然り。

▼三無主義とか言われるが、その源をたどれば、エゴイズムに行きつく

のではないだろうか。

▼利己主義というのがあるよ。

この二、三年の本校(主に二十四期)を見てみると、「害他主義」という

感じをする。人のことにお構いなし。しかし、かといって自分のやう

ベキことはちゃんとしているかという、そうでもない。

▼今年、日本中が冷害だ。た。未春本校は大凶作だという観測がある。

約中しかねないぞ、このままだと、今の頃のようなタイドでは。

(高3生のタワゴト)

十二月十七日投稿

応援団設立建白書

一、学校側が中心となり、中一から高三まで、各学年二十名前後の人員を募り、学年、クラスに關係のない

統一かつ大規模な応援団を設置すること。

二、当応援団は原則として毎年改組することなく、五年間を通じる団員が形成し、技、などの改良、改善、

新種の開業などに努めること。

一、当応援団は設置当時はクラブ

はもとより同好会などの地位に含め

れなくてよく、定期的な活動も不要であるが、次第にその内容を高め、

最後にはクラブに準ずる団体になるよう、学校側が努力すべきである。

一、公式活動は原則として野球部の試合におけるものであるが、研究することにより、他のクラブ、その他においての活動範囲を拡げてゆくことを望む。

一、団員の中には、各学年ごとに、トランペットやトロンボーン等を吹奏可能な人を入れて欲しい、これはオーケストラ部からの編入よりは団員の中で練習により吹けるようになる方がいい。その他、様々の経済補助等を、学校側が努力して欲しい。

一、様々な要求はあるが、まずなにはともあれ、人員を集めて応援団らしきものでも作、て始めて欲しい。

(高2 匿名希望)

十一月 上旬 投稿

※局では参考として、学校側の見解を求めてみた。

同好会として扱うなら考え

られるが、今の時期では考えものだ。同好会については、来年、本校でも討議され、形式が変わるかもしれない。

(生徒部長・渡辺先生)

注

投票は四百名前後で記名を原則とし、匿名希望の人はその旨を書いて下さい。イラスト(4cm四方)も募集しています。次号は卒業記念(百三号)です。採用には鉛筆道主。

編集後記

「活版100号」と思ったところが、計算が成り立っており、やむなく臨時号となりました。この号をもって、高2の局員は第一線を退き、今後は高1以下のスタッフが企画・編集の中心になり、今後とも活版新聞をよりよく、

最後まで読んで下さる人への、今年もはげ年でありまうように祈ります。

スタッフ H2A 山根、山根、奥村、池田、H2B 山根、山根、奥村、池田、H2C 山根、山根、奥村、池田、H2D 山根、山根、奥村、池田、

顧問 藤田行男、宮山信夫、先生